

## II 関宿藩誕生

徳川家康が関東移封を命ぜられ江戸入府以降、大形河川の集まる関宿は軍事的にも経済的にも重要視され江戸時代を通じて幕府はここに譜代大名を配置しました。初代藩主は家康の異父弟にあたる松平康元で、歴代藩主の多くは幕府要職を務め、4人の老中を輩出しています。また、水上交通の要衝であったことから関所（川関所）も置かれていました。

関宿城は平地に築かれた平城で、利根川や江戸川は濠の役目もしています。主郭は本丸、二の丸、三の丸、発端曲輪、天神曲輪があり、外郭に家臣団の屋敷が置かれました。

本丸の北西隅に「御三階櫓」と呼ばれる天守閣があります。これは、寛文11年(1671)に江戸城富士見櫓を模して再建したものです。

